

1. 九州大学の目標

日本の基幹大学として、多様かつ学際分野での研究を推進するとともに、

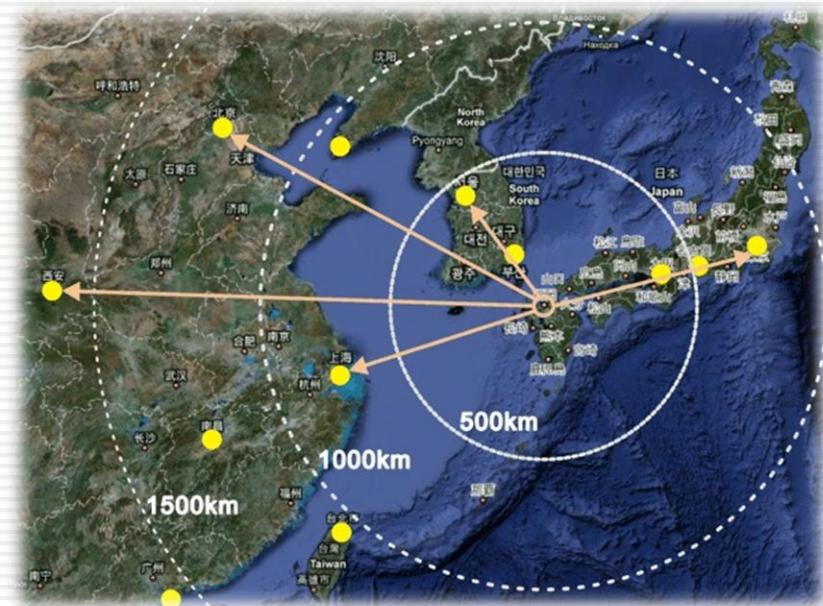
- ◆ これまで積み重ねてきた実績に基づく「新科学領域への展開」
- ◆ 地理的・歴史的必然性が導く「**アジアをテーマとする研究**」

を推進し、**世界最高水準の教育研究拠点**を目指す。

九州大学の中期目標（抜粋）



- ◆ **アジアをテーマ**とした卓越した独創的な研究を推進
- ◆ **アジアを核**とした国際社会との研究における**連携・協力を推進**
- ◆ 戦略的国際交流プロジェクトを一層推進し、**特にアジアの諸大学**（交流協定14カ国・122校，2009年）との交流を活性化



東アジアの環境問題



急激な経済成長による
自動車・工場・発電所排出ガスの
大気汚染問題

工場および住宅からの
廃棄物による
河川・土壌汚染問題



エネルギーおよび農業用水の
需要増大に伴うダム建設による
河川・海洋の環境変化、汚染拡大

食料需要の増大に伴う
農地の拡大による
国土の砂漠化問題



人類史上、かつて経験したことがない
急激な環境汚染の速さと規模



中国・韓国・日本、ひいては**世界中の国々に被害**が及ぶ
経済発展の恩恵と表裏一体であると認識



「越境汚染」、グローバル問題へのひろがり



2. 東アジア環境研究機構の設立

九州大学『東アジア環境問題プロジェクト』は、本学百周年記念事業の一環として2007年9月より発足し、2009年4月から『**東アジア環境研究機構**』として新たに生まれ変わることになりました。

『東アジア環境研究機構』では、私たちが東アジア諸国の一員として何をすべきか、これに対する九州大学からの提言を行い、国際産学官連携による環境問題の実践的な解決を目指しています。

3. 東アジア環境研究機構の理念

九州大学の**知**と**技術**を集結し・・・

- ◆ 持続可能な未来環境の創成
- ◆ 東アジアの深刻化する環境問題を実践的に解決
- ◆ 研究者と東アジア環境ストラテジストの育成

に貢献する。



湖沼の富栄養化



膨大な不適正処理廃棄物



メガシティの大気汚染

4. Organization of RIEAE

機構長

有川節夫 九州大学総長

副機構長

九州大学副学長

研究企画・運営委員会

プロジェクト推進室

プロジェクト推進室長 | 副推進室長 | 室長補佐 | 学術研究員

社会基盤コンソーシアム

- 1) 都市環境グループ
- 2) 低炭素都市システムグループ
- 3) フードリスク研究グループ

環境共生コンソーシアム

- 4) 水環境グループ
- 5) 砂漠化防止グループ

環境保全コンソーシアム

- 6) 大気環境グループ
- 7) 海洋環境グループ
- 8) 環境化学グループ

環境計画・政策
グループ



(1) 都市環境グループ

東アジアの廃棄物埋立地において、ごみ分解に起因する温室効果ガスや浸出汚水等の環境負荷を削減可能な高度廃棄物処分手法の開発を行います。



研究対象フィールドの埋立ごみ
(上海市老港廃棄物処分場)

(2) 低炭素都市システムグループ

都市のエネルギー消費とCO₂排出の抑制なしに低炭素社会は実現できないとの共通認識のもと、東アジアの都市を持続可能な成長に導くための国際共同研究を推進します。



調査対象
フィールド

(3) フードリスク研究グループ

「環食不二」の視点から、環境・食糧リスクの予知、制御、管理のための理論の確立と技術開発を目指しています。



東アジアにおける食糧の安全性と農業環境資源リスクに関する
日中学術シンポジウム（2008年）

(4) 水環境グループ

中国の環境汚染の代表例としても有名な太湖水圏を対象に、俯瞰的な水質底質改善方策および生物多様性の保全方策を提案することを目指します。



太湖の豊栄養化の現状

(5) 砂漠化防止グループ

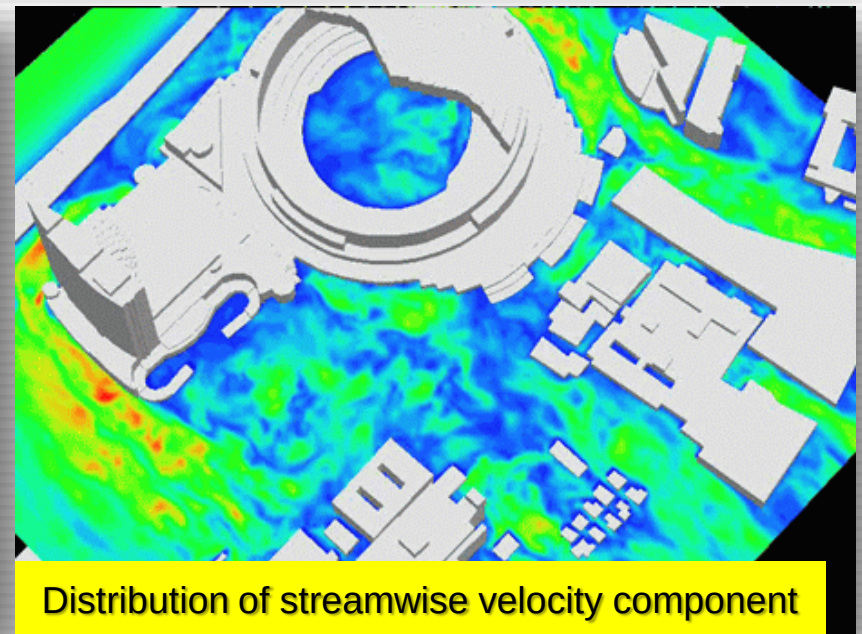
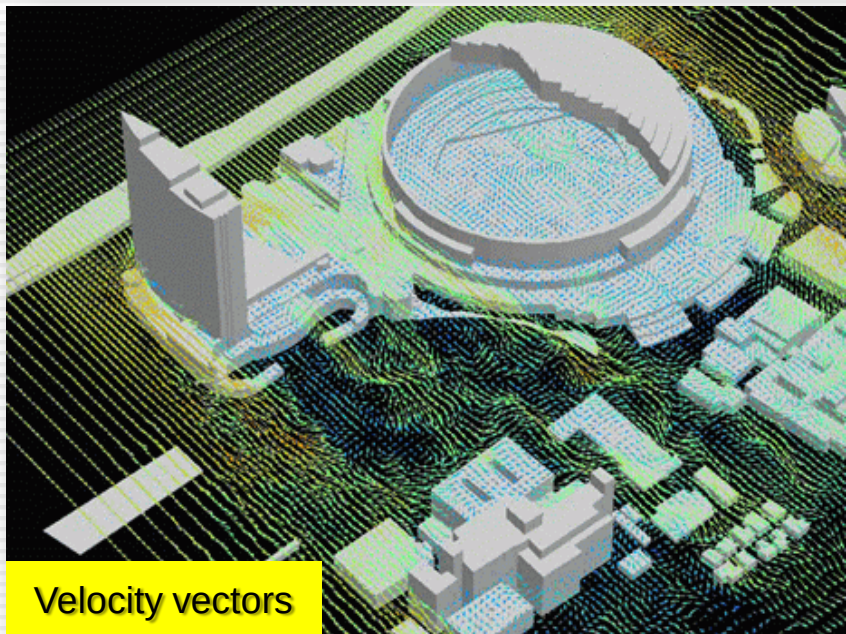
九州大学に東アジア地域の砂漠化防止研究拠点を構築し、国内外の砂漠化防止研究機関と連携し、UNCCD（砂漠化防止条約）等を通じて砂漠化防止に貢献します。



進行する砂漠化

(6) 大気環境グループ

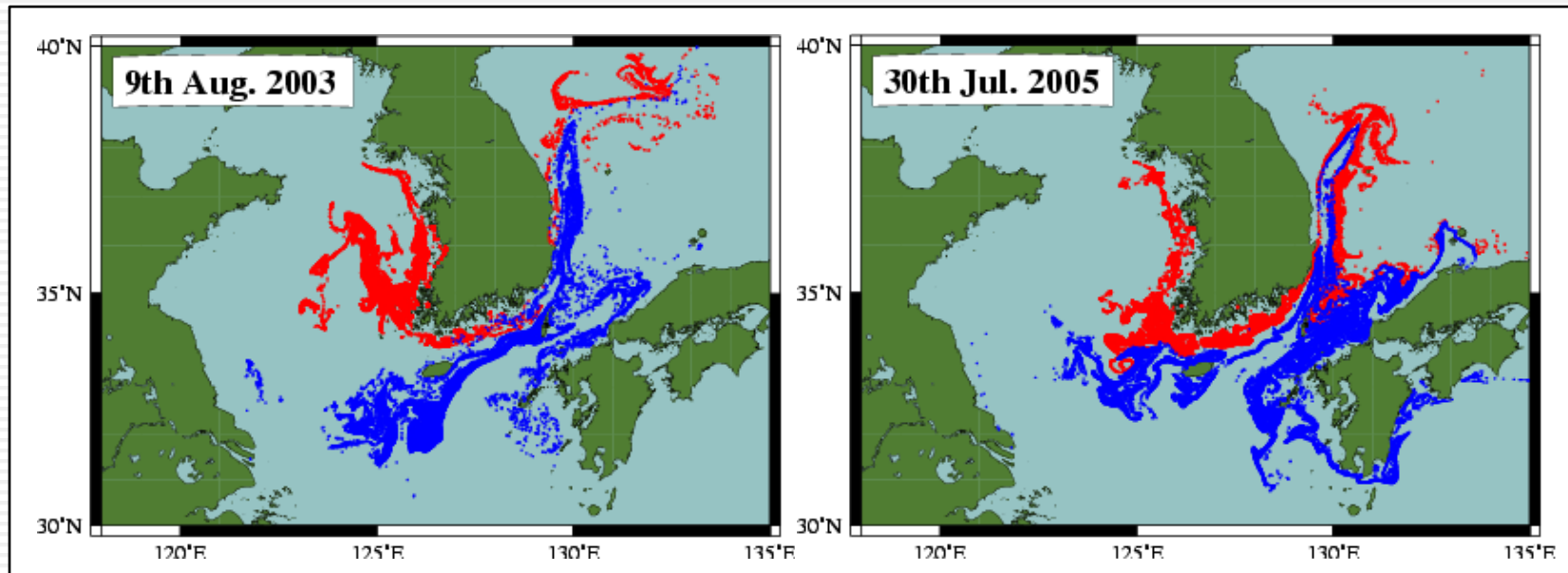
大都市圏の大気環境に焦点を当てて、その改善に資する技術やシステムの開発、提言を、中国を中心とする東アジア諸国と共同して取り組みます。



都市域における大気環境シミュレーション

(7) 海洋環境グループ

黄海・東シナ海におけるエチゼンクラゲ大発生のような越境環境問題の解決と国際共同研究を推進するために、中国・韓国の研究者と国際ワークショップを開催します。



2003、2005年のエチゼンクラゲの漂流経路（計算）

(8) 環境化学グループ

省エネ・新エネルギー用の新材料、廃棄物処理・計測技術を通して、東アジア環境問題の解決を目指します。



The International Symposium on Environmental Problems in East Asia 2009

5. EAEP (東アジア環境問題シンポジウム)

EAEP2009

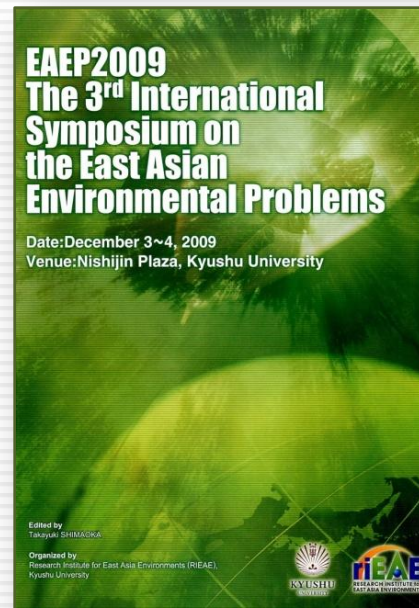
- ◆ シンポジウム：
2009年12月3～4日
九州大学 西新プラザ
- ◆ 100名を超える参加者：
中国・モンゴル・カザフスタン・日本
- ◆ 38編の講演と発表：
海外から15編・国内から23編
- ◆ 見学会：
2009年12月5日
熊本県水俣市内



Symposium (Presentation)



Symposium (Discussion)



Proceedings



Observation Tour

EAEP2010

- ◆ 2010年冬に 中国で開催予定

6. 東アジア環境ストラテジスト

✚ 研究と教育を両輪に東アジアの環境問題解決に貢献



東アジア環境ストラテジスト育成プログラム

全学的な体制による受け入れ

工学府、人間環境学府、経済学府、医学府、
総合理工学府 ほか

体系的なカリキュラムによる教育

アジア環境論、環境システム論、
環境の社会経済分析、
環境ソリューション学、
プロジェクト演習、現場研修 ほか

充実した留学生への支援

奨学金、
ワークショップによるアフターケア

実践的教育による人材の育成

- ◆ 現場を知る人材
- ◆ 戦略をもって環境問題に対応できる人材

育成目標

- ◆ 修士40人：国内12・海外28
- ◆ 博士25人：国内10・海外15

7. 今後の活動計画

開学百周年

2009

2010

2011

2012

2013

2018

研究

教育

調査研究

実証研究

社会基盤コンソーシアム

都市環境
Gr.

低炭素都市
システムGr.

フードリス
ク研究Gr.

環境共生コンソーシアム

水環境
Gr.

砂漠化
防止Gr.

環境保全コンソーシアム

大気環境
Gr.

海洋環境
Gr.

環境化学
Gr.

環境計画・政策Gr.

調査研究結果を
布石とした
分野横断型
実証研究の推進

東アジア環境ストラテジスト育成プログラム

国際交流による若手研究者の人材育成

若手研究者
育成システムの開発

カウンターパートとの連携強化

国内関連大学との連携強化

専門知の分野横断型研究の企画・推進

活動の評価と方針決定

東アジア環境問題の
包括的解決へ向けた
多機関融合型
国際研究体制
の構築

政府各省庁の協力による
国際プロジェクトへの展開

東アジア圏における
環境問題解決へ

対象国全土におよぶ連携体制へ